ル御隙ナク、只今ノ樣ニゾ、被二思召出一ケル、

〔平家物語九〕小朝拜

平家はさぬきの國八嶋のいそにおくりむかへて、年の始○壽永三年なれ共、元日元三のぎしき事よろしからず、○中略花のあした月の夜、詩歌くはんげん、まり、小弓、扇合、ゑ合せ、草づくし、虫づくし、さまざまけう有し事共思ひ出、かたりつゞけて、永き日をくらしかね給ふぞ哀なる、

〔伊勢集〕九の宮○九の宮、一本作二九條一のみやすどころの御もとに、こばこあはせのころ、はこにこうばいのつぼめるを入てまいらせたるに、

君にとし思ひかくればうぐひすの花のくしげもをしまざりけり○返歌略

〔倭訓栞中編加四〕かひあはせ　貝合也、かひおほひともいへり、徒然草に見ゆ、耳白と蛤を用うといへり、或はおだまの貝とて、鹿島香取の浦の蛤を用うともいへり、

〔東海道名所記四〕桑名より四日市まで三里八町

右の方に城あり、町中を上るに、大手の橋、左のかたにあり、爰は蛤の名物あり、蛤は諸國にあれども、貝合の貝になるは、伊勢はまぐりにまさる事なし、○中略貝厚くして破れがたしといふ、

〔萬寶全書八〕貝合之貝之事

一桑名貝　勢州名物尤吉、耳白、横さしわたし貳寸三分、或は貳寸五分、此大きさなるが貝合によし、かた手にて取物なるゆへなり、貝の員數三百六十合有、左右にて七百貳拾片有、

一朝鮮貝　上々耳白、大なるは横さしわたし貳寸八分程有、貝合の貝には朝鮮貝の大なるは惡しと也、されば共大にて見事なるゆへに直段高直成ものなり、

〔貝盡浦の錦上凡例〕夫かいを弄ぶる事、古來は只蛤の大なるを三百六十を集め、これをかざるに中を絹を以て綣し、金銀を點じ、五彩の畫をほどこす、六角の筒に納てこれを合を以て兒女の翫

小筥合

貝合